令和七年度

国語

注意

1　問題は1ページから5ページまであり、これとは別に解答用紙が1枚ある。

2　解答は、全て別紙解答用紙の該当欄に書き入れること。

（一）次の文章を読んで、1～8の問いに答えなさい。（1～14は、それぞれ段落を示す番号である。）

1 脳を広く使った直観力で物事を判断することは重要であり、集中力を発揮せず、(注1)分散系を活性化させた状態で物事を決めることが、良い意思決定につながる。しかし、多くの人が「それでは論理的な決定はできない①よ」と疑問を感じるのではないだろうか。

2 論理的というのはきちんと筋道を立てて考えることであり、結論に至る根拠を言語化して示すことができるということである。その根拠として、大規模なデータがあれば理想的で、なくても象徴的な具体例などを挙げることができれば、ある程度は論理的に説明できた、ということになる。しかし、いわゆる論理的な決定という(注2)金科玉条にも、大きな落とし穴があることを知っておかないといけない。

3 論理的思考においては、課題に対する回答・主張を言葉によって明確化する。これは簡単に言えば、まず「自分は～だと思う」と結論をシンプルな言葉で表現し、そして「なぜなら～というデータがあるから」と、その主張を支える事実を示すことと言ってもいい。そしてこの際に、②その主張と事実を結ぶ根拠がなければならない。まずは課題を具体的な言葉にすることから始まるが、これは複雑な世界を言語によって単純なモデルに落とし込むことであり、③論理の強みであると同時に、根本的な弱点と言ってもいいであろう。

4 シンプルと言えば通常はわかりやすいことを示していて褒め言葉であるが、単純化となると、表面的・一面的な問題の(注3)矮小化につながりやすいので注意が必要だ。世の中を正しく理解し、最適解に近い方向性を見いだすには論理だけでは難しい理由は、そこにある。

5 また、論理的思考では脳の一部分、(注4)集中系しか使っていない。「AかBか」「イエスかノーか」と問いの範囲を狭めることは、それ以外の脳を使わないことを意味する。時にそういった思考法が必要であることを認めるとしても、この複雑な世の中で本当の意味での最適解からは離れていってしまうだろう。

6 つまり、論理的思考において、言語化が必須である一方で、言語化は物事を過剰に単純化させてしまうことを知っておく必要がある。多くの複雑な事象が、言語によって一つにまとめられてしまうのである。

7 課題設定の段階での単純化は、データの扱いにも影響する。果たして目の前のデータだけで物事を判断してしまっていいのか、そのデータの解釈に自分の個性・癖・強みが色濃く反映されて偏った判断になっていないか、そういったことに疑いの目を持つことが必要なのである。常に、こういった批判的な目で自分の判断を［　A　］に評価していることを④「クリティカル・シンキング（批判的思考）」と呼ぶ。

8 クリティカル・シンキングは論理的思考から発展したものであるから、目的を明確にして、具体的な問いや課題を設定することが出発点となる。ここでは、まず言語化がなされるので、それによる単純化によって見落とされた重要な論点はないかを考える。時々、言語化の前の段階に戻って考えてみる必要があるわけだ。

9 そして、あるデータが手元にあれば、この他にもデータはないのか、このデータのとり方は適正か、といった批判的な目で見ることが必要になる。「どうしてこうなるのだろう」「本当にこの考え方でいいのだろうか」といった問いを常に自分に突き付けていることが重要なのである。

10 このクリティカル・シンキングのような考え方が注目されている背景には、変化の激しい現代では、前例や慣習に縛られた思考をしていたのでは物事の本質に近づくことはできないという危機感がある。データの正しい解釈と物事の本質に近い最適な結論にたどり着くためには、批判的な目でその前提となっている事実を再検討していくことが近道になるからだ。

11 一方で、⑤直観思考では複雑な物事は複雑なまま理解し、記憶のネットワークにつなげることで、新しい解釈、新しい思考を生み出していく。論理的思考だけに頼って問いや主張を常に言語化して単純化していると、自分の経験知の意味記憶ネットワークにすんなりと組み込まれにくくなる。言語化することなく複雑なものを複雑なまま捉え、それをもとに考えることによって、はじめて物事や課題を本質的に理解することにつながり、ネットワークに組み込まれやすくなるのである。

12 この「考えて、理解する」ことこそが重要だ。理解したことであれば脳内にしっかりと記憶され、その後で思考する時に多くの情報を引き付けるような「結びつきのための突起を持っている」と言ってもいい。深く考える時の基準点、あるいは(注5)ハブとなってくれるわけだ。

13 「前提を疑う」というクリティカル・シンキングの精神は非常に重要であり、論理思考と直観思考をつなぐ橋渡しの役を果たすことになる。その課題設定は正しいのかと問うことは、直観を得るために必要な、［　B　］につながるからである。

14 言語化以前の複雑な状況を常に意識することで、課題解決に向けた思考が単純なモデルとして矮小化してしまうことを避けることができる。イメージとしては、どんどん目的地の下流へ向かって問いを狭めていくのではなく、上流の、より本質に近い問いを見失わないようにするということだろう。本質的な問いを考える時には、脳を広く使わなければならない。それが、脳の記憶ネットワークを活性化して優れた直観につながっていくはずだ。

（岩立　康男『直観脳』による。）

1 [2]段落の――線①「筋」とあるが、行書で書かれた次のア～エの漢字のうち、楷書で書いた場合の総画数が、楷書で書かれた「筋」の総画数と同じになるものを一つ選び、その記号を書け。

ア 統　イ 閉　ウ 照　エ 振

筋…十二画

ア 統…十二画

イ 閉…十一画

ウ 照…十三画

エ 振…十画

答 ア

2 [3]段落の――線②「その主張と事実を結ぶ根拠がなければならない」の中で使われていない品詞として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア 形容詞　イ 名詞　ウ 副詞　エ 助詞

連体 名 助 名 助 動 名 助 形 助 動 助 動

その主張と事実を結ぶ根拠がなければならない

答 ウ

3 [7]段落の[A]に当てはまる最も適当な言葉を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア 間接的　イ 包括的　ウ 恣意的　エ 客観的

[7] 課題設定の段階での単純化は、データの扱いにも影響する。果たして目の前のデータだけで物事を判断してしまっていいのか、そのデータの解釈に自分の個性・癖・強みが色濃く反映されて偏った判断になっていないか、そういったことに疑いの目を持つことが必要なのである。常に、こういった批判的な目で自分の判断を[A]に評価していることを「④クリティカル・シンキング（批判的思考）」と呼ぶ。

ア 間接的…何かが間に介在して物事が行われるさま

イ 包括的…全体をひとまとめにすること

ウ 恣意的…自分の都合や思い付きで行動すること

エ 客観的…自分の主観や感情などにとらわれず物事を見たり考えたりすること

答 エ

4 3段落の――線③「論理の強みであると同時に、根本的な弱点と言ってもいい」とあるが、論理の強みと弱点について、本文の趣旨に添って説明した次の文の［a］、［b］、［c］に当てはまる最も適当な言葉を、4～6段落の文中から、［a］は三字、［b］は十二字以上十五字以内、［c］は二十字以上二十五字以内で、それぞれそのまま抜き出して書け。

論理的思考においては、［a］によって課題とその回答・主張をわかりやすくするが、［a］は、課題設定において、複雑な世界を単純化させ、［b］につながるおそれがあるため、［c］ことが難しくなるということ。

4 シンプルと言えば通常はわかりやすいことを示していて褒め言葉であるが、単純化となると、表面的・一面的な問題の矮小化(注3)につながりやすいので注意が必要だ。世の中を正しく理解し、最適解に近い方向性を見いだすには論理(注4)だけでは難しい理由は、そこにある。

5 また、論理的思考では脳の一部分、集中系しか使っていない。「AかBか」「イエスかノーか」と問いの範囲を狭めることは、それ以外の脳を使わないことを意味する。時にそういった思考法が必要であることを認めるとしても、この複雑な世の中で本当の意味での最適解からは離れていってしまうだろう。

6 つまり、論理的思考において、言語化が必須である一方で、言語化は物事を過剰に単純化させてしまうことを知っておく必要がある。多くの複雑な事象が、言語によって一つにまとめられてしまうのである。

6段落を見る

答 a 言語化

4段落を見る

答 b 表面的・一面的な問題の矮小化

c 世の中を正しく理解し、最適解に近い方向性を見いだす

5 7段落の――線④「クリティカル・シンキング（批判的思考）」について、文中には、クリティカル・シンキングが注目されている理由を、論理的思考においてクリティカル・シンキングがもたらす効果を示しながら述べている一文がある。その一文として最も適当な一文を、8～10段落の文中から抜き出し、その最初の五字を書け。

8 クリティカル・シンキングは論理的思考から発展したものであるから、目的を明確にして、具体的な問いや課題を設定することが出発点となる。ここでは、まず言語化がなされるので、それによる単純化によって見落とされた重要な論点はないかを考える。時々、言語化の前の段階に戻って考えてみる必要があるわけだ。

9 そして、あるデータが手元にあれば、この他にもデータはないのか、このデータのとり方は適正か、といった批判的な目で見ることが必要になる。「どうしてこうなるのだろう」「本当にこの考え方でいいのだろうか」といった問いを常に自分に突き付けていることが重要なのである。

10 このクリティカル・シンキングのような考え方が注目されている背景には、変化の激しい現代では、前例や慣習に縛られた思考をしていたのでは物事の本質に近づくことはできないという危機感がある。データの正しい解釈と物事の本質に近い最適な結論にたどり着くためには、批判的な目でその前提となっている事実を再検討していくことが近道になるからだ。

10段落を見る

答 データの正

6　次の会話は、この文章を読んだ哲也さんが、11段落の――線⑤「直観思考」を本文の記述に添って理解しようと、由美さん、正雄さんと話し合った内容の一部である。会話の中の［a］、［b］に当てはまる適当な言葉を書け。ただし、［a］は、11・12段落の文中の言葉を使って、三十五字以上四十字以内で書くこと。また、［b］は、最も適当な言葉を、11・12段落の文中から十一字でそのまま抜き出して書くこと。

哲也さん　「11段落の最初の一文は、11段落と12段落の内容を簡潔にまとめているね。」
由美さん　「二文目以降で、論理的思考と対比させて、直観思考をより詳しく説明しているわ。」
正雄さん　「最初の一文の『複雑な物事は複雑なまま理解し、』の『複雑なまま理解する』の部分を詳しく説明すると、複雑な物事は［a］ということだね。」
由美さん　「そのようにして理解したことが、記憶のネットワークに組み込まれやすいのはどうしてかしら？」
哲也さん　「そのようにして理解したことは、脳内に記憶されて定着し、［b］ようになるからだね。」
正雄さん　「そうして、思考する時に、理解したことが記憶のネットワークにつながり、その結びつきが基準点やハブとなって、新しい解釈や新しい思考を生み出していくということだね。」

11　一方で、直観思考では複雑な物事は複雑なまま理解し、記憶のネットワークにつなげることで、新しい解釈、新しい思考を生み出していく。論理的思考だけに頼って問いや主張を常に言語化して単純化していると、自分の経験知の意味記憶ネットワークにすんなりと組み込まれにくくなる。言語化することなく複雑なものを複雑なまま捉え、それをもとに考えることによって、はじめて物事や課題を本質的に理解することにつながり、ネットワークに組み込まれやすくなるのである。

12　この「考えて、理解する」ことこそが重要だ。理解したことであれば脳内にしっかりと記憶され、その後で思考する時に多くの情報を引き付けるような「結びつきのための突起を持っている」と言ってもいい。深く考える時の基準点、あるいは(注5)ハブとなってくれるわけだ。

答　a　(例)言語化せずに複雑なまま捉え、捉えたことをもとに考えて物事や課題を本質的に理解する

b　多くの情報を引き付ける

7　13段落の［B］に当てはまる最も適当な言葉を、二単語から成る六字で、13・14段階の文中からそのまま抜き出して書け。

13　「前提を疑う」というクリティカル・シンキングの精神は非常に重要であり、論理思考と直観思考をつなぐ橋渡しの役を果たすことになる。その課題設定は正しいのかと問うことは、直観を得るために必要な、［B］につながるからである。

14　言語化以前の複雑な状況を常に意識することで、課題解決に向けた思考が単純なモデルとして矮小化してしまうことを避けることができる。イメージとしては、どんどん目的地の下流へ向かって問いを狭めていくのではなく、上流の、より本質に近い問いを見失わないようにするということだろう。本質的な問いを考える時には、脳を広く使わなければならない。それが、脳の記憶ネットワークを活性化して優れた直観につながっていくはずだ。

答　本質的な問い

8　本文に述べられていることと最もよく合っているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　脳の集中系は、論理的思考において複雑な事象を扱う際に、問いの範囲を広げるために用いられる。

イ　クリティカル・シンキングは、論理的思考におけるデータ分析の時だけ必要で、適切な根拠を導く。

ウ　脳の記憶ネットワークを活性化することで得られる直観は、意思決定において重要な役割を果たす。

エ　大規模なデータや象徴的な具体例に、批判的な視点の裏付けが伴えば、直観を得る必要はなくなる。

1　脳を広く使った直観力で物事を判断することは重要であり、集中力を発揮せず(注1)分散系を活性化させた状態で物事を決めることが、良い意思決定につながる。しかし、多くの人が「それでは論理的な決定はできないよ」と疑問を感じるのではないだろうか。

11　一方で、(5)直観思考では複雑な物事は複雑なまま理解し、記憶のネットワークにつなげることで、新しい解釈、新しい思考を生み出していく。論理的思考だけに頼って問いや主張を常に言語化して単純化していると、自分の経験知の意味記憶ネットワークにすんなりと組み込まれにくくなる。言語化することなく複雑なものを複雑なまま捉え、それをもとに考えることによって、はじめて物事や課題を本質的に理解することにつながり、ネットワークに組み込まれやすくなるのである。

Ⅰ・Ⅱ段落の内容から判断する

答　ウ

(二) 次の文章は、紙の記念館を運営する製紙会社に就職し、新記念館開館のプロジェクトチームに配属された「百花」が、前社長の妻で、就職前に紙の記念館でアルバイトをしていた時からお世話になっている「薫子」と、電話で話をしている場面である。これを読んで、1～5の問いに答えなさい。

「百花さん。」薫子さんが言った。
「もちろんできれば成功させたいけど、失敗しないことだけ考えてたら、小さなことしかできないと思うの。」
その言葉にはっとした。
「企業として、利益をあげることは大切だけど、記念館の事業はもともと利益追求より、社会への還元、っていうのかな、大赤字になるのは避けないといけないけど、いまの時代にわたしたちがしなければならないこと、わたしたちにできることをちゃんと示すことの方が大事なんじゃないかと思う。」
「しなければならないこととできること……。」
「いまは、記録や情報伝達はコンピュータに置き換えられて、紙の役割は少なくなりつつある。資源のことを考えたら、大量の書類を複製するのはよくないことだし、それでいいと思うの。だけど、①紙には物質としての良さもあるじゃない？」
「そうですね。」
「紙を作るためのこれまでの人々の工夫のなかには、これからに役立つ技術も含まれていると思うの。紙によって暮らしが彩られたり、心が豊かになったり、気持ちが②和んだり、ネットの世界にまだ置き換えられていない機能はたくさんあるわけで……。」
暮らしが彩られたり、心が豊かになったり、気持ちが和んだり……。
わたしたちはただ機械的に情報を記録したり伝達したりしていたわけじゃない。そこには心や気持ちが宿っている。紙は、心を証するものとして、人とともにあった。
「もしかして、わたしたちがいま目を向けなければならないのは、人々が紙にこめてきた思いなんでしょうか。」
「紙にこめてきた思い……？」薫子さんが訊き返してくる。
「わたしたちが紙を大事にしてきたのは、そこに人の思いがこもっているからで……。手紙でも贈り物を包む紙でも、だれかが人に伝えたいと思う気持ち、相手を大事に思う気持ちがこめられている。障子や襖の紙は人々の生活を整えるとともに、それをながめる喜びがある。濾紙のような実用の紙も、質の高いものを作ろうという思いのなかで生まれたもの。だから、それは……。」
どう言ったらいいのかわからなくなり、いったん言葉を止めた。
「うまく言えないんですが、『こうしたい、こうなりたい』という願いを実現するために、人が作り出した思いの形そのものなのかな、って……。」
手紙や本や雑誌は文字を載せるためのものだし、手帳やノートは記録するためのもの。摸や障子は家の仕切りであり、鑑賞するためのもの。紙は願いを実現するための素材だ。
「わかる。そうだと思う。願いに近づきたいっていう人の思いのあとを感じるから、わたしたちは紙というものに惹かれるのね。」
「でも、やっぱりそれだけじゃなくて。本美濃紙も細川紙も、紙そのものがうつくしかった。人が作ったものとは思えない、自然物みたいなうつくしさで……。」
「自然物みたいなうつくしさ。ほんとうにそうね。」
「はじめて見たとき、人はこんなうつくしいものを作れるんだって、びっくりして、感動して……。人間は素晴らしい、って感じたんです。」
「そう、それを伝えたい、ってわたしもずっと思ってた。大事なのは、これを生み出した人間と、いうものに誇りを持ってもらうことなのかもしれない。」
「誇りを持ってもらう……。」
「信じる、って言ってもいいわよね。たとえばレオナルド・ダ・ヴィンチの作品は素晴らしいけれど、それは天才の仕事。だれにでもできることじゃないってみんな思う。でも、紙漉きは職人の仕事だもの。多くの人が携わり、作家性もない。でもうつくしい。」
「わたしは和紙を見ているとすごく、ものづくりをしたくなってくるんです。この紙をこう使ったらどうだろうとか、これとこれを組み合わせたら、とか。」
「そうやって記念館グッズもたくさん作ってくれたもんね。」
薫子さんのやわらかな笑顔が頭に浮かび③気持ちがほっとゆるんだ。
「職人さんと話すことで、ものづくりの深さを知ることもできましたし。みんながみんなものづくりに興味があるわけじゃないとは思うんですが、その楽しさを伝えたいという気持ちもあります。」
「そうね。」薫子さんがゆっくりと言った。
「百花さん、わたしはね、記念館はこれからの人のためのものであってほしいと思うの。過去の話は興味がある人にとってはおもしろいかもしれないけど、そうじゃない人には単なるむかしばなしに間こえちゃうでしょう。それじゃダメなのよ。これからの人にとっても意味があるものを提供してほしいの。」
「これからの人……。」
「百花さんや、その下の世代の人のことよ。④チームのメンバーを新人だけにするっていうのは、一成(注1)が言い出したことだけど、わたしの願いでもあるの。」
「え、薫子さんの？　そうだったんですか。」
これまで考えもしなかったが、言われてなるほどと思った。
「わたしたちにはわたしたちの世界の像があって、どうしてもそこから発想してしまう。世界にあたらしいものがどんどん生まれているのに、それに対応できず、古いものにしがみついてしまう。あたらしい世界を作ることができるのは、若い人だけだから。」
薫子さんがふうと息をついた。
「わたしたちにはもうこれからの世界を作る体力はないのよ。それに、そこはもうわたしたちの住む世界じゃない。どうしたって人ごとになってしまう。だから百花さんたちに作っていってもらいたい。これからの人のためのものを作ってもらうことが、わたしにとってもいちばんうれしいことなの。やらなければいけない、でも自分ではできないことだから。」
「胸がいっぱいになって、どう答えたらいいかわからなくなった。」
「もちろん失敗は痛いけど、冒険して。安全ばかり考えてても生き残れないから。会社のことは雄一(注2)や晃成がちゃんと考えてるから大丈夫。新人はやりたいことを提案する方に集中してほしいの。全部通るとはかぎらないけどね。」
わたしも新人なんだから、当たって砕けろ、だ。正しい答えを出そうとするんじゃなくて、やりたいことを探していけばいい。そう思った。
（ほしお　さなえ『紙屋ふじさき記念館　あたらしい場所』による。）

（注1）一成＝薫子の孫で、紙の記念館の館長。
（注2）雄一や晃成＝どちらも薫子の子供で、製紙会社の重役。

1 ――線②「和んだり」と同じ意味で「和」が用いられている熟語として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 総和　イ 漢和　ウ 温和　エ 唱和

答 ウ

2 ――線①「紙には物質としての良さもあるじゃない？」とあるが、百花が薫子のこの言葉を聞いて考えたことについて説明した次の文章の［a］、［b］、［c］に当てはまる最も適当な言葉を、［a］、［c］は十二字で、［b］は十五字で、それぞれ文中からそのまま抜き出して書け。

百花は、薫子の言葉を聞いて、［a］に注目し、紙は、人の心や気持ちを宿した、［b］なのではないかと思い至った。同時に、紙そのものの［c］に魅了された経験を思い出した。

けど、①紙には物質としての良さもあるじゃない？」

「そうですね。」

「紙を作るためのこれまでの人々の工夫のなかには、これからに役立つ技術も含まれていると思うの。紙によって暮らしが彩られたり、心が豊かになったり、気持ちが②和んだり、ネットの世界にまだ置き換えられていない機能はたくさんあるわけで……。」

暮らしが彩られたり、心が豊かになったり、気持ちが和んだり……。

わたしたちはただ機械的に情報を記録したり伝達したりしていたわけじゃない。そこには心や気持ちが宿っている。紙は、心を証するものとして、人とともにあった。

「もしかして、わたしたちがいま目を向けなければならないのは、人々が紙にこめてきた思いなんでしょうか。」

「紙にこめてきた思い……？」薫子さんが訊き返してくる。

「わたしたちが紙を大事にしてきたのは、そこに人の思いがこもっているからで……。手紙でも贈り物を包む紙でも、だれかが人に伝えたいと思う気持ち、相手を大事に思う気持ちがこめられている。障子や襖の紙は人々の生活を整えるとともに、それをながめる喜びがある。濾紙のような実用の紙も、質の高いものを作ろうという思いのなかで生まれたもの。だから、それは……。」

どう言ったらいいのかわからなくなり、いったん言葉を止めた。

「うまく言えないんですが、『こうしたい、こうなりたい』という願いを実現するために、人が作り出した思いの形そのものなのかな、って……。」

手紙や本や雑誌は文字を載せるためのものだし、手帳やノートは記録するためのもの。襖や障子は家の仕切りであり、鑑賞するためのもの。紙は願いを実現するための素材だ。

「わかる。そうだと思う。願いに近づきたいっていう人の思いのあとを感じるから、わたしたちは紙というものに惹かれるのね。」

「でも、やっぱりそれだけじゃなくて。本美濃紙も細川紙も、紙そのものがうつくしかった。人が作ったものとは思えない、自然物みたいなうつくしさで……。」

答 a 人々が紙にこめてきた思い

b 人が作り出した思いの形そのもの

c 自然物みたいなうつくしさ

3 ――線③「気持ちがほっとゆるんだ。」とあるが、このときの百花について説明したものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア 薫子の誘導により、自分の気持ちをすらすらと表現することができ、心地よい疲れを感じている。
イ 自分のことを変わらず見守り、思いを受け止めてくれる薫子の温かさを感じ、心が安らいでいる。
ウ 薫子に自分の心の中を見透かされてしまったあせりが徐々に消えていき、緊張がとけてきている。
エ 自分の考えが薫子の考えと同じであることに大きな喜びを感じ、気持ちにゆとりが生まれている。

薫子さんのやわらかな笑顔が頭に浮かび③気持ちがほっとゆるんだ。
「職人さんと話すことで、ものづくりの深さを知ることもできましたし。みんながみんなものづくりに興味があるわけじゃないとは思うんですが、その楽しさを伝えたいという気持ちもあります。」
「そうね。」薫子さんがゆっくりと言った。
「百花さん、わたしはね、記念館はこれからの人のためのものであってほしいと思うの。過去の話は興味がある人にとってはおもしろいかもしれないけど、そうじゃない人には単なるむかしばなしに聞こえちゃうでしょう。それじゃダメなのよ。これからの人にとっても意味があるものを

答 イ

4 ――線④「チームのメンバーを新人だけにする」とあるが、薫子が、新記念館のプロジェクトチームのメンバーを新人だけにして、これからの人のためのものであるあたらしい記念館づくりを、若い百花たちに任せたいと望んだ理由を説明した次の文の□に当てはまる適当な言葉を、文中の言葉を使って五十字以上六十字以内で書け。

薫子は、これからの人のためのあたらしいものを作ろうとしても、自分たちは、□ので作ることができないが、若い百花たちなら作ることができると考えたから。

「百花さんや、その下の世代の人のことよ。④チームのメンバーを新人だけにするっていうのは、一成(注1)が言い出したことだけど、わたしの願いでもあるの。」
「え、薫子さんの？　そうだったんですか。」
これまで考えもしなかったが、言われてなるほどと思った。
「わたしたちにはわたしたちの世界の像があって、どうしてもそこから発想してしまう。世界にあたらしいものがどんどん生まれているのに、それに対応できず、古いものにしがみついてしまう。あたらしい世界を作ることができるのは、若い人だけだから。」
薫子さんがふうと息をついた。
「わたしたちにはもうこれからの世界を作る体力はないのよ。それに、そこはもうわたしたちの住む世界じゃない。どうしたって人ごとになってしまう。だから百花さんたちに作っていってもらいたい。これからの人のためのものを作ってもらうことが、わたしにとってもいちばんうれしいことなの。やらなければいけない、でも自分ではできないことだから。」

直後の薫子の発言をまとめる

答 (例)自分たちの世界の像から発想し、これからの世界を作る体力がなく、自分たちが住むことのない世界のことは人ごとになってしまう

5　本文についての説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　薫子は、忘れていた紙の良さや紙づくりに従事する職人たちの尊さを、百花との会話を通して思い出すとともに、自分の信念を貫き少しずつ成長しようとしている百花との会話を楽しんでいる。

イ　薫子は、百花が自分の興味があることに目を向けるだけで、事業を通して利益を生むという企業の責任を顧みないことを心配し、自分の失敗談を伝えることで百花の間違いを正そうとしている。

ウ　百花は、薫子が自分の力量の限界を感じ取り寂しさをにじませる様子に困惑しつつも、薫子が長年大切にしてきた夢をかなえることこそ自分のすべきことだと悟り、覚悟を決め意気込んでいる。

エ　百花は、新記念館がうまくいくかどうかにこだわって自分は何をすべきか迷っていたが、薫子と話すうちに、恐れず自分がやりたいことを大切にすればいいと気づき、気持ちを新たにしている。

薫子さんがふうと息をついた。

「わたしたちにはもうこれからの世界を作る体力はないのよ。それに、そこはもうわたしたちの住む世界じゃない。どうしたって人ごとになってしまう。だから百花さんたちに作っていってもらいたい。これからの人のためのものを作ってもらうことが、わたしにとってもいちばんうれしいことなの。やらなければいけない、でも自分ではできないことだから。」

胸がいっぱいになって、どう答えたらいいかわからなくなった。

「もちろん失敗は痛いけど、冒険して。安全ばかり考えてても生き残れないから。会社のことは雄一（注2）や晃成がちゃんと考えてるから大丈夫。新人はやりたいことを提案する方に集中してほしいの。全部通るとはかぎらないけどね。」

わたしも新人なんだから、当たって砕けろ、だ。正しい答えを出そうとするんじゃなくて、やりたいことを探していけばいい。そう思った。

薫子との会話や文末の内容から読み取る

答　エ

(三) 次の1～4の各文の――線の部分の読み方を平仮名で書きなさい。

1 洞窟を探検する。

どうくつ

2 頓挫しかかった計画を見直す。

とんざ

3 梅の花が匂う。

におーう

4 解決策を会議に諮る。

はかーる

(四) 次の1～4の各文の――線の部分を漢字で書きなさい。ただし、必要なものには送り仮名を付けること。

1 この海は海産物のほうこだ。

宝庫

2 金のこうみゃくを発見する。

鉱脈

3 荷物をあずける。

預ける

4 弓で矢をいる。

射る

（五）次の文章を読んで、1～3の問いに答えなさい。

瀬戸浦（注1）の内に、何とか言へる小さき入江あり。先年、国君（注2）船にて遊覧ましませし時、民家ただ一軒あり。親子三人住めりしを御覧あり。駒木根八兵衛正次（注3）を召して、何を営みて過ごすや聞き候へと仰せ①ありしほどに、尋ねしかば、釣りをして世を渡ると申す。また御意（注4）に、何にても望み候へとのことなりしに、ほかに望み申すことなし。網を下さるることあらば、やすく営み仕るべしと申す。やがて宮地某（注5）に申し付けて、ととのへとらせよとの御事にて、駒木根②かれこれはからひしに、後は追々に家あまた栄え、一つの浦（注6）になりける。これひとへに駒木根が陰なりとて、駒木根八兵衛明神と祝ひこめ、社を建て、その所の氏神とうやまふとなり。これ駒木根いまだ生存の日よりのこととなん記せる。思ふに、昔唐土（注7）にて、善政をほどこしける良吏を慕ひて、生祠（注8）を建てしことこれかれ見ゆ。こなたにてはめづらしきことなり。

（『閑田次筆』による。）

（注1）瀬戸浦＝今の和歌山県白浜町付近。　（注2）国君＝君主。
（注3）駒木根八兵衛正次＝人名。　（注4）御意＝ご命令。
（注5）宮地某＝人名。「某」は名前などが不明の場合に使う語。　（注6）浦＝ここでは、漁村のこと。
（注7）唐土＝今の中国のこと。　（注8）生祠＝その人の徳を慕って、存命中にまつった社。

1　――線②「かれこれはからひしに」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

答　かれこれはからいしに

は行→わ行に直す

2　――線①「仰せありし」は「お命じになった」という意味である。誰が、誰に対して、何をするように命じたのかを説明した次の文の［a］、［b］、［c］に当てはまる言葉について、［a］、［b］は、最も適当なものを、後の［a・bの選択肢］のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書け。また、［c］は、「親子」という言葉を使って、二十字以上二十五字以内の現代語で書け。

［a］が、［b］に対して、［c］ように命じた。

［a・bの選択肢］　ア　国君　イ　駒木根　ウ　宮地某　エ　良吏

答　a　ア　b　イ

（五）次の文章を読んで、1～3の問いに答えなさい。

（注1）瀬戸浦の内に、何とか言へる小さき入江あり。先年、（注2）国君船にて遊覧ましませし時、民家ただ一軒あり。親子三人住めりしを御覧あり。（注3）駒木根八兵衛正次を召して、何を営みて過ごすや聞き候へと仰せありしほどに、尋ねしかば、釣りをして世を渡ると申す。また（注4）御意に、何にても望み候へとのことなりしに、ほかに望み申すことなし。網を下さるることあらば、やすく営み仕るべしと申す。やがて（注5）宮地某に申し付けて、ととのへとらせよとの御事にて、駒木根①かれこれはからひしに、後は追々に家あまた栄え、一つの（注6）浦になりける。これひとへに駒木根が陰なりとて、駒木根八兵衛明神と祝ひこめ、社を建て、その所の氏神とうやまふとなり。これ駒木根いまだ生存の日よりのこととなん記せる。思ふに、（注7）昔唐土にて、善政をほどこしける良吏を慕ひて、（注8）生祠を建てしことこれかれ見ゆ。こなたにてはめづらしきことなり。

（『閑田次筆』による。）

（注1）瀬戸浦＝今の和歌山県白浜町付近。　（注2）国君＝君主。
（注3）駒木根八兵衛正次＝人名。　（注4）御意＝ご命令。
（注5）宮地某＝人名。「某」は名前などが不明の場合に使う語。　（注6）浦＝ここでは、漁村のこと。
（注7）唐土＝今の中国のこと。　（注8）生祠＝その人の徳を慕って、存命中にまつった社。

2　――線①「仰せありし」は「お命じになった」という意味である。誰が、誰に対して、何をするように命じたのかを説明した次の文の［a］、［b］、［c］に当てはまる言葉について、［a］、［b］は、最も適当なものを、後の［a・bの選択肢］のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書け。また、［c］は、「親子」という言葉を使って、二十字以上二十五字以内の現代語で書け。

［a］が、［b］に対して、［c］ように命じた。

［a・bの選択肢］　ア　国君　　イ　駒木根　　ウ　宮地某　　エ　良吏

引用の「と」から国君の発言を探す

答　c（例）親子は、どうやって生計を立てているのかを聞く

（五）次の文章を読んで、1～3の問いに答えなさい。

瀬戸浦（注1）の内に、何とか言へる小さき入江あり。先年、国君（注2）船にて遊覧ましませし時、民家ただ一軒あり。親子三人住めりしを御覧あり。駒木根八兵衛正次（注3）を召して、何を営みて過ごすや聞き候へと仰せ①ありしほどに、尋ねしかば、釣りをして世を渡ると申す。また御意（注4）に、何にても望み候へとのことなりしに、ほかに望み申すことなし。網を下さるることあらば、やすく営み仕るべしと申す。やがて宮地某（注5）に申し付けて、ととのへとらせよとの御事にて、駒木根②かれこれはからひしに、後は追々に家あまた栄え、一つの浦（注6）になりける。これひとへに駒木根が陰なりとて、駒木根八兵衛明神と祝ひこめ、社を建て、その所の氏神とうやまふとなり。これ駒木根いまだ生存の日よりのこととなん記せる。思ふに、昔唐土（注7）にて、善政をほどこしける良吏を慕ひて、生祠（注8）を建てしことこれかれ見ゆ。こなたにてはめづらしきことなり。

（『閑田次筆』による。）

（注1）瀬戸浦＝今の和歌山県白浜町付近。　（注2）国君＝君主。
（注3）駒木根八兵衛正次＝人名。　（注4）御意＝ご命令。
（注5）宮地某＝人名。「某」は名前などが不明の場合に使う語。　（注6）浦＝ここでは、漁村のこと。
（注7）唐土＝今の中国のこと。　（注8）生祠＝その人の徳を慕って、存命中にまつった社。

3　次の会話は、この文章を読んだ夏美さんと春樹さんが、駒木根が存命中にまつられたことについて話し合った内容の一部である。会話の中の［a］、［b］、［c］に当てはまる適当な言葉を書け。ただし、［a］は、七字以内の現代語で書くこと。また、［b］、［c］は、最も適当な言葉を、文中からそれぞれ七字でそのまま抜き出して書くこと。

夏美さん　「親子三人だけが住む小さな入江に一つの村ができて、駒木根が村の氏神としてまつられたと書かれているね。」
春樹さん　「そうだね。だけど、村の繁栄は、もともとは、親子の［a］という要望に素早く応じた国君のおかげではないのかな。それなのに、なぜ駒木根をまつったのだろう。」
夏美さん　「駒木根があれこれと段取りをしたから、家が栄え、村にまでなったのは『［b］』と考えたのね。」
春樹さん　「なるほど。立派な役人を生きているうちにまつることは、『［c］』であったと書かれているから、駒木根はよほど人々から慕われたのだろうね。」

答　a（例）網がほしい
　　b　駒木根が陰なり
　　c　めづらしきこと

令和七年度　国語　解答用紙

全日制 定時制	科	受検番号	号	氏名

（一）

問題	解答欄
1	ア
2	ウ
3	エ
4 a	言語化
4 b	表面的、一面的な問題の矮小化
4 c	世の中を正しく理解し、最適解に近い方向性を見いだす
5	データの正
6 a	言語化せず複雑なまま捉え、捉えたことをもとに考えて物事や課題を本質的に理解する
6 b	多くの情報を引き付ける
7	本質的な問い
8	ウ

（二）

問題	解答欄
1	ウ
2 a	人々が紙にこめてきた思い
2 b	人が作り出した思いの形そのもの
2 c	自然物みたいなうつくしさ
3	イ
4	自分たちの世界の像から発想し、これからの世界を作る体力がなく、自分たちが住むことのない世界のことは人ごとになってしまう
5	エ

（三）

問題	解答欄
1	どうくつ
2	とんざ
3	にお（う）
4	はか（る）

（四）

問題	解答欄
1	宝庫
2	鉱脈
3	預ける
4	射る

（五）

問題	解答欄
1	かれこれはからいしに
2 a	ア
2 b	イ
2 c	親子は、どうやって生計を立てているのかを聞く
3 a	網がほしい
3 b	駒木根が陰なり
3 c	めづらしきこと

問題	得点
（一）	
（二）	
（三）	
（四）	
（五）	
作文	
合計	

全日制 定時制	科	受検番号	号	氏名

〔令和七年度　国語　作文問題〕

次の資料は、ある中学校の図書委員会が、生徒の読書活動を推進するために作成した図書館だよりの一部である。あなたは、中学生が今よりも読書に親しむようになるために、どのようなことが必要だと考えるか。そう考える理由を含めて、後の注意に従って述べなさい。

資料

読書活動の推進について考えよう！

読書が好きな児童生徒の割合

	平成29年度	令和５年度
小学６年生	74.4%	72.0%
中学３年生	70.0%	66.0%

（国立教育政策研究所の全国調査の結果による。）

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、本を全く読まない児童生徒の割合

	平成29年度	令和５年度
小学６年生	20.4%	24.3%
中学３年生	35.4%	36.7%

（国立教育政策研究所の全国調査の結果による。）

中学生が今よりも読書に親しむようになるために必要なことを、みんなで考えましょう。

○○中学校図書委員会

〈注意〉

1 上の資料を見て気づいたことを交えて書くこと。
2 あなたが体験したことや見聞したことを交えて書いてもよい。
3 段落は、内容に応じて設けること。
4 文章の長さは、三百字以上、四百字以内とする。
5 資料の中の数値を使う場合は、次の例に示したどちらの書き方でもよいこととする。
　例　七四・四％　または　七十四・四％
　　七〇・〇％　または　七十％
6 なお、「％」は、「パーセント」と書いてもよい。
　氏名は右の氏名欄に書き、文題は書かないこと。

得点

400字　300字　200字　100字